

国際化学肥料ニュース（2019年10月）

肥料業界の2019年10月動態

- * 10月7日、インドMMTC社が今年6回目の尿素国際入札を発表した。10月14日締切と開札、10月21日契約、11月18日まで船積みという条件である。なお、購買数量が未定とされている。尿素の国際市況不振を見込んで、70～150万トンを購入する予定である。

- * 10月14日インドMMTC社の尿素国際入札が開札された。16社が応札し、最低応札価格はSamsung社のCFR東海岸270.27ドル/トン、Dreymoor社のCFR西海岸269.89ドル/トンである、CFR272ドル/トン未満の応札量が約100万トン。インドMMTC社が100万トンの購入を目指している模様。

- * 10月22日インドMMTC社の尿素国際入札は契約数量118万トンと確認された。中東、エジプト、ロシアの現物を一掃した。イラン産尿素の転売を含む中国からの品物40数万トン（中国国内産25～30万トン）。
また、インドの国内尿素生産量が増えたことにより、2019～2020年度の尿素輸入量が約500万トン、平年より約300万トン減少する見込みである。従って、今年中にもう1回の尿素国際入札があると推定される。

- * 10月7日、バングラデシュが行った尿素の国際入札が開札した。5万トン小粒尿素（小袋包装）の最低応札価格はCFR299.1ドル/トン、2.5万トン大粒尿素（バラ）の最低応札価格はCFR297.3ドル/トンである。

- * ロシアPhosagro社のCFO Andrey Guryev氏が記者会見で、国際市場の需要に応え、Phosagro社は主力製品をDAP/MAPから化成肥料に移し、2025年に年間生産能力をりん酸系肥料900万トン、窒素肥料270万トンの計1170万トン（100%NKP換算）に達すると述べた。
Phosagro社は2003年設立したりん酸塩関係の化学企業で、ムルマンスク州にリン鉱山を有し、りん酸系肥料、飼料用りん酸塩添加物、りん酸塩化学品の生産を行う。

- * 中国とロシアの塩化加里国境貿易は輸入価格に関する商談がうまく行かず、6月から塩化加里の輸入が途絶えた。10月も再開しない可能性が高い。これは中国とロシアの国境貿易が始まってから初めてのことである。

- * 中国窒素肥料工業協会の発表によれば、2019年1～9月中国アンモニア生産量が2.9%増の4389.6万トン、窒素肥料生産量（N換算）が5.3%増の3056.2万トン、尿素生産量が4.2%増の4190.1万トン。また、1～8月窒素肥料輸出量が28.7%増の360万トン、その内尿素輸出量が183.6%増の269.4万トンである。
- * オランダのOCI社とアラブ首長国連邦のAbu Dhabi National Oil Company社（ADNOC）は両者がそれぞれ持っている中東諸国にあるアンモニアと尿素生産設備の統合を合意した。両者の合弁でFertiglobe社を設立し、持ち株率はOCI社58%、ADNOC社42%。統合により、Fertiglobe社は年間アンモニア生産能力150万トン、尿素生産能力500万トンを有し、売上高17億ドルになる中東最大の窒素肥料メーカーとなる。
- * アメリカのMosaic社は加里肥料の国際市況不振のため、10月から12月末までカナダサスカチュワン州にあるEsterhazy加里鉱山の生産量約60万トンを削減すると発表した。これにより第4四半期の業績に約1.5億ドルの減収となる見通し。
- * 10月第2週のリン安市況がやや回復したものの、価格の下落が続いている。東半球では、インドGSFC社のDAP国際入札にAgrifields社が提供する4.5～5万トンヨルダン産DAPを落札した模様。モロッコのOPC社がCFR331ドル/トンでパキスタンに4.5～5万トンDAP、チュニジアのGCT社がFOB330ドル/トンでトルコに2～2.5万トンDAP、サウジアラビアのMaaden社が2.7万トンでバングラデシュに2.7万トンDAPを販売した。
西半球では、ロシアのEuroChem社がCFR314～315ドル/トンでブラジルに2.5万トンMAP、サウジアラビアのMaaden社もブラジルに3万トンMAP、ロシアのPhosAgro社が南米に5000トンDAP、ヨルダンがFOB310ドル/トンでスーダンに1～1.5万トンDAPの輸出契約を結んだ。
モロッコのOPC社とサウジアラビアのMaaden社がリン安生産能力の増大に伴い、安値で輸出量の拡大を狙うため、年内にリン安の国際価格が安値で続くとの見通しである。
- * 中国税関の速報によれば、2019年9月の中国化学肥料輸出量が4.3%増の248.7万トン、金額が8.5%減の6.62億ドル。その内訳は硫安61万トン、尿素55万トン、DAP70万トン、MAP16万トン、NPK化成肥料13万トン、重過リン酸石灰10.6万トン、塩化加里2.5万トン、硫酸加里2.4万トン。一方、9月の化学肥料輸入量111万トン、金額3.52億ドル。その内訳は塩化加里95万トン、NPK化成肥料15万トン、硫酸加里1万トン。

- * 中国の中国—アラビア化学肥料公司 (SACF) の発表によれば、10月に北海道に4種類計7500トン化成肥料を輸出した。到着港は苫小牧港と釧路港。これは、中国産化成肥料が初めて大量に北海道に輸出することである。
- * 世界の塩化加里生産能力過剰と市況不振により、ロシアのEuroChem社が所有の2ヶ所の加里鉱山(1ヶ所がすでに稼働、1ヶ所が開発中)の開発を遅らせる。EuroChem社は2024~2025年に年間塩化加里生産能力を830万トンにする計画であったが、最新の計画では2025~2027年に先延ばす。
- * 10月25日、インドとロシアのUralkali社が2019~2020年度塩化加里基本契約を締結した。新契約のCFRインド280ドル/トンで、前年度(2018~2019年度)より10ドル/トン安くなる。但し、この基本契約は2019年10月から2020年3月末までの変形的な契約である。慣例によれば、ほかの加里肥料大手メーカーもこの価格で契約するだろう。
- * 中国窒素肥料工業協会の内部データによれば、2019年1~8月中国窒素肥料が生産、販売と輸出が不振で、業界全体の業績が悪化している。業界全体の利益が25%減少し、一定規模以上の窒素肥料メーカー188社のうち70社が赤字で、その赤字の合計額が45億人民元(約6.4億ドル)に達した。尿素の価格下落が主な原因である。
- * モロッコOCP社がインドとの粗リン酸に関する価格協議に結果が出た。2019年第4四半期インドに輸出する粗リン酸の価格を625ドル/トン(100%P2O5換算)で、第3四半期より30ドル/トン値下げした。値下げの理由はDAPとMAPの国際市場不振である。インドは年間数100万トンの粗リン酸を輸入して、それを原料として国内でDAPとMAPを生産する。
- * 10月29日、ベラルーシのBPC社はインドと2019~2020年度塩化加里輸入基本契約を締結したと発表した。CFRインド280ドル/トンで、10月25日ロシアのUralkali社がインドと契約した価格と同じである。
- * 10月31日、イスラエルのICL社がインドとの2019~2020年度塩化加里輸入基本契約を締結したと発表した。2020年3月までの短期契約で、CFRインド280ドル/トンで、10月25日ロシアのUralkali社がインドと契約した価格と同じである。

大手各社の営業業績

* 中国上場している大手肥料メーカー15社の1～9月業績を発表した。概して3社は昨年同期より業績が良くなっているが、9社は業績が悪化し、3社が赤字である。中国の化学肥料使用量の抑制と輸出価格の低迷が原因で、生産量と販売量が大幅に減少した。各社の業績を表に纏める。なお、上場している肥料メーカー21社であるが、残りの6社はまだ発表していない。

中国一部上場肥料メーカーの2019年1～9月業績（単位：億人民元）

会社名	1～9月の売上高	1～9月の純利益	昨年同期の純利益	純利益の増減率
華魯恒昇	106.11	19.12	25.35	-24.55%
魯西化工		8.9	23.51	-62.15%
新洋豊	81.21	6.42	7.35	-12.71%
金正大	111.33	4.85	9.54	-49.15%
蔵格股份		3.8	7.53	-49.56%
華昌化工		2.51	1.22	105.51%
司爾特	23.55	2.0	1.86	7.70%
雲天化		1.3	0.83	62.12%
湖北宜化		1.15	3.34	-65.63%
興化股份	14.97	1.09	1.89	-42.47%
凱竜股份	13.7	0.92	1.01	-8.79%
芭田股份	15.68	0.19	0.14	33.21%
河池化工		-0.47	-0.97	
柳化股份		-4.83	-0.84	
塩湖股份		-5.8	-12.13	

*一部のメーカーは売上高を発表せず、純利益だけ公表した。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

* オーストラリアの Kalium Lakes 社は8月に7200万オーストラリアドルの融資を獲得して、西オーストラリア州の Beyondie 硫酸加里プロジェクトに関する生産計画を策定した。2020年商業生産を開始し、最初年間9万トン硫酸加里を生産し、5年後生産能力を18万トンに引き上げる。

当該プロジェクトは西オーストラリア州 Pilbara 地域にあり、塩湖の鹹水を原料に硫酸加里を生産する。すでにドイツ IPEX 銀行から1.02億オーストラリアドル、北オーストラリアインフラ整備基金から7400万オーストラリアドルと West Pacific 銀行から1500万オーストラリアドルの融資を受け、2015年から開発を開始した。硫酸加里生産能力18万トン/年、採掘寿命30～50年と設定されている。

- * イギリスの Emerson 社はモロッコ Khemisset 加里プロジェクトについて、新しい探鉱データにより加里資源量が 5.37 億トンと推算され、元来の予測より 72%増加したと発表した。2020 年下期に当該プロジェクトの開発可能性に関する最終報告を完成し、公表する予定である。なお、Emerson 社の CEO は開発に必要な資金を投資家から集める努力をして、現在ヨーロッパのある商業銀行から 2.3 億ドルの融資を受けると述べる。Khemisset はモロッコの北部にあり、加里鉱石の平均品位は 9.24%K₂O、年間 80 万トン塩化加里を生産し、20 年以上の採掘ができるという。

その他

- * 9 月 30 日、中国最大の加里メーカー青海塩湖社は青海省裁判所の決定により、破産再生手続を開始した。2019 年上半期の業績報告書によれば、青海塩湖社は総資産 733.44 億人民元、総負債 550.87 億人民元、負債率 75%しかないが、それでも破産再生を選んだのは、総資産の大部分が固定資産で、流動資金が不足である一方、大株主の青海国家資産管理委員会と国営企業の中国化工グループが青海塩湖社の負債を減らし、個人株主に損失を被らせ、自分の地位を守る思惑があるといわれる。裁判所が選定した再生責任者は青海省の副省長である。
- * カナダの Nutrien 社はオーストラリアの Ruralco Holdings 社の買収を完了したと発表した。Nutrien 社は世界最大の加里肥料メーカーで、Ruralco Holdings 社を買収したことで、オーストラリアの肥料市場に進出し、加里を含む化学肥料の販売拡大と利益確保を目論んでいる。
- * ロシアのスプートニク通信社が 10 月 7 日の報道によれば、ロシア Acron 社が北極航路を利用して初めて 2.3 万トン化成肥料を中国に輸出した。北極航路の開通により、ヨーロッパからアジアまでの航路が短くなり、時間の短縮と海運賃の節約に役立つという。